

## 白毛門・笠ヶ岳山行報告

【山城】上越:谷川白毛門・笠ヶ岳

【日程と天気】2015年10月4日 曇りのち晴れ

【メンバー】CL 菊池・八角・寺崎（記）:全員昭和24年生まれ

【行程】千葉-6:35 白毛門駐車場(700m)7:10-松ノ木沢の頭-11:02 白毛門(1720m)-笠ヶ岳(1852m)-白毛門-松木ノ沢の頭-16:40 駐車場

未明、千葉を出発。関越道を直走り、水上ICを降りて6時半過ぎには土合橋登山口の駐車場に着く。既に何台もの車が停まっている。多少雨が心配されるもののどうやら持ちこたえそう。準備をして7時、湯檜曾川にそそぐ東黒沢に架かる赤い小さな橋を渡って登山を開始するや否やの急登。

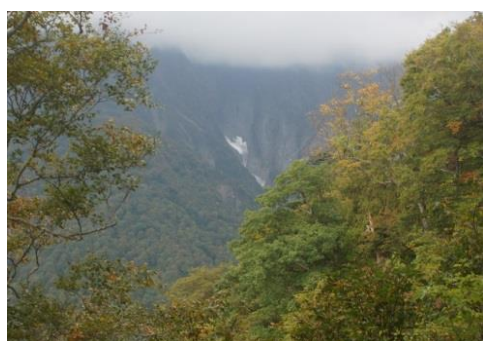


木々の根っこが縦横無尽に張り出し、なかなか手強い。ブナ林の中を通り抜け、足を持ち上げては登っていくと、大きな仙人のような樹に出合った。「アスナロ:明日はヒノキになろう」と聞く。その後、様々に姿形を変えた何本ものアスナロの巨木を見る。

ブナの美林に癒されながら高度を稼いだ。



霧に隠れて、進む山々はよく見えない。八角さんが楽しみにしていた谷川岳も霧に包まれている。湯檜曾川を挟んで東側（群馬）は日差しものぞいていたが、谷川側（新潟）は雲がかかっており、残念ながら迫力の岩峰は見えなかった。辛うじて一ノ倉(?)にわずかな雪渓が残っているのが見えた。



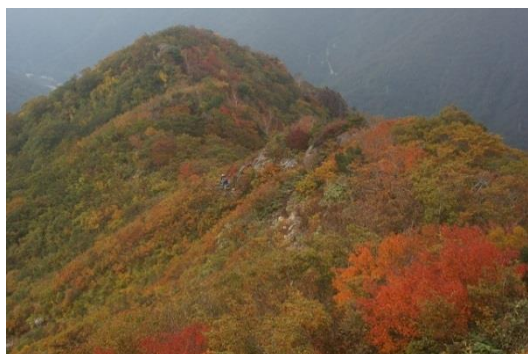
日本海からの風が心地よく登山を助けてくれた。右に見えてきた白毛門沢が美しく、ここを上る人々がいると聞いたので目を凝らしたがわからなかった。途中滝も姿を現した。樹林帯を抜けたら展望が開けるはずなのだが霧が邪魔をしている。紅葉は今一つかと思うもののダケカンバの黄色やナナ

カマドの赤が目を引き。菊池さんは何度もカメラを向けた。

岩場（鎖場）をよじ登り、ようやく「松ノ木沢の頭」に到着。ここでお昼。霧の間に大きなジジ岩・ババ岩が見えた。



その天辺が白毛門。すうっと霧が消えると山肌の紅葉した木々が目に飛び込んでくるが、すぐに霧に覆われてしまう。さすが、白毛門の霧らしく、仙人が山を隠しているようにも見える。



岩場とガレを上り詰め、ようやく白毛門山頂。四角いコンクリートの上にはピッケルが埋め込まれていた。鎮魂のようだ。



休憩して、先の笠ヶ岳に向かう。クマザサの中を通り、ガレを気にしながらようやく笠ヶ岳頂上。白毛門からはかなり向こうに見えていたのに、いつの間にか登頂していた。その先の朝日岳も登れそうな気がしたが、菊池さん曰く「無理！」。

笠ヶ岳の山頂から下る頃になり漸く陽がさしてきて、笠ヶ岳から朝日岳の山頂が見えた。錦秋の稜線散歩を暫く楽しみ記念撮影、満足度は 120% にアップした。



松ノ木沢の頭で見事な紅葉を最後のショットとしてあとは急な下りを慎重に降りるだけ。



帰りに何人もの若者たちが我々を追い越して行った。菊池さんが声をかけると、どの若者も「沢登りを終え下りているところだ。」と言う。あの急な沢を上ってきたのに、みんなフットワークが軽い。さすが、若者！しかし、こちらはそういうわけにはいかない。来た道を引き返すわけだが、木の根っこが思いの外、進行

を妨げる。「行きはよいよい…。」だ。そういえば、行きはずいぶん歩幅を広げないと登れなかった。その分、根っこは下山を難しくし、一步の差が大きく、下ろした足にずしんと響く。駐車場に着いた時は、足ががくがくしていた。

谷川温泉の「湯テルメ谷川」で、至福のひとつきを過ごし、一路千葉へ。

(文責 寺崎)

・標高差 1150m の急な上り下りは昭和 24 年生まれのメンバーにはかなりハードであった。登り下りともゆっくりで、登りでも息切れは感じないペースであったが、さすがに下りは急斜面が長く続くため、膝への負担は極めて大きい。ダブルストックの効用は勿論であるがそれでも、終盤、膝の痛みが若干出現、さらにペースダウンとなった。日頃のトレも有効で、後日の筋肉痛はごくわずかではあったが、完全に疲れがとれたのは 6 日 (水曜日) の朝であり、朝ランを再開した。(菊池)